

P-H-6

タヒーボ・シャンピニオン粒配合物の単独および併用に対する 抗酸化効果、デトックス効果に関する研究

Antioxidant effect and detoxification effect for combination and independent in Taheebo,
Mulberry lobe and Champignon

具 然和^{1), 2)}, 山川 秀樹¹⁾, 竹内 由樹¹⁾, 斉藤 睦¹⁾, 玉野弘一郎¹⁾,
高木 康之¹⁾, 山下 剛範¹⁾, 平野 実³⁾, 井坂八四郎⁴⁾, 石田 寅夫²⁾

1) 鈴鹿医療大・院・保健衛生, 2) 鈴鹿医療大・ハイテク研究,
3) 環境・健康研究所, 4) 三水テクノ(株)研究所

In this study, we performed combination and independent to relate to antioxidant effect and detoxification effect for Thebe, Mulberry lobe and Champignon and decided to review this mechanism. Dosage assumed it 500mg/kg /0.3ml and performed prior administration for three weeks. The antioxidation action performed AAPH and the SOD-activity measurement. About detoxification effect methods, we analyzed the following ingredients than blood and urine. It is thought that this combination removes internal dirt than antioxidation action and detoxification effect.

【目的】

本研究では、タヒーボ・シャンピニオン粒配合物の単独および併用に対する抗酸化効果、デトックス効果に関する研究を行い、これらのメカニズムについて検討することとした。

【方法】

投与量は 500mg/kg/0.3ml とし、3 週間事前投与を行った。Control 群、桑の葉群、タヒーボ群、シャンピニオン群、タヒーボ・シャンピニオン配合物群とした。抗酸化作用は、ルミノール測定と SOD 様活性度測定による抗酸化実験を行った。デトックス効果方法については、血液と尿より、以下の成分を分析した。

【結果】

各投与群において SOD 様の活性は認められた。また、AAPH 由来のルミノール発光強度が顕著に抑制された。投与 60 日後の血液と尿から、Control 群に比べ、各投与群に有意なデトックス効果が認められた。その中でも特に配合群では、最も効果が著しく、相乗効果が認められた。

【結論】

これらの配合物は、抗酸化作用より、体内の汚れを除去すると考えられる。配合剤は、酸化防止剤として酸化反応に触媒作用を呈する重金属を不活性化するキレート剤の可能性もあり、解毒剤としても期待される。